

Yomy^{ヨミー}

読売ライフ

「読売新聞はスタジオジブリを応援し、『ゲド戦記』に特別協力します」

ゲド戦記

ル＝グウィン原作 宮崎吾朗 第一回監督作品

読売新聞読者に毎月
YCからお届けします

4

APR. 2006

<http://www.y-life.jp/>



特集／辞書の森・探検
料理／桜ダイで春色づくし
地域面／そろばんで脳力アップ！他

2006年7月全国東宝洋画系ロードショー

原作『ゲド戦記』（清水真砂子訳・岩波書店刊）



小さな指で懸命に
珠をはじく

画面の珠は動かないが、
指で置いて計算する



そろばんに取り組む子ども
たち。最近では、パソコン
による暗算を取り入れている
塾が増えてきている



そろばんで 脳力アップ

電卓やパソコンの普及で、影の薄くなっていたそろばん。だが、計算力の向上や脳の活性化などに効果のあることが分かり、見直されてきている。

野口ゆうこ

2006年4月号

目次

- 1 ● 特集1 / そろばんで脳力アップ
- 5 ● お気楽シェイプアップ / 脚を強くする
- 6 ● 特集2 /
辞書の森・探検
- 10 ● ガーデニング / 寄せ植えの手順
- 12 ● 今月の運氣 通販
- 14 ● 読売ロマンの旅 /
北海道・道南
- 17 ● ことばのよもやまばなし 赤筆診療たん
- 19 ● みんな de 川柳
- 20 ● プレゼント
アサヒ本生、サンスター・ドゥー など

読売ライフ

- 22 ● 料理 /
桜ダイで春色づくし
- 25 ● パズル 頭の道場
- 26 ● 読者の? 探ります / 食品サンプル
- 29 ● 健康 / 便秘 BOOK
- 32 ● 読者から... /
今月のテーマ「小さなシアワセ」
- 35 ● 家計塾
- 37 ● 通販 まはろショッピング /
レーズンサンド、はちみつ など
- 38 ● 店 / おいしいものの特集 通販
- 40 ● YCだより 虹 情報

表紙の絵

『ゲド戦記』

今年7月に公開予定のスタジオジブリ最新作『ゲド戦記』。これは、宮崎吾朗監督が描いた水彩画をもとにした第1弾ポスターの絵です。少年と彼を見下ろす巨大な竜がどんな関係にあるのか、それは映画館で観てのお楽しみ。ちなみに、ポスターには「かつて人と竜はひとつだった。人は大地と海をえらび、竜は風と火をえらんだ。」というコピーが添えられています。この言葉が気になった方は、ぜひ原作を読んで、想像力を羽ばたかせてみてください。(スタジオジブリ)

お母さんたちの選択

大阪市の主婦、鈴木敦子^{あつこ}さんは、小6の長男にそろばんを習わせなかつたことを悔やんでいる。「習った同級生は計算が速くて算数の得意な子が多いんです。でも、うちの子は計算が苦手です……。近くに塾がなく、行かせようと思った時期と母の介護が重なって送り迎えが出来なかつた



ものですから」

鈴木さんの友人の吉川匡子^{まさこ}さんもそろばん支持派。小4の長女を1年程前に入塾させた。「ほかの学習法をやらせていたんですが、そろばんの方が汎用性に富むような気がして。私も習っていたので、今でも暗算ができます。娘も半年目ぐらいから面白くなってきたみたいです」

数年前に囲碁を始めた吉川さんは、最近、暗算が楽に出来るようになったと言う。囲碁は頭の中で石を動かして数手先を読む。暗算も頭の中で珠を動かす。吉川さんはイメージすることが脳に良い刺激を与えているのでは、と感じているそうだ。

珠算は左脳、暗算は右脳

そろばんは脳力アップにどんな効果をもたらすのだろう。大阪府大名誉教授の林壽郎^{としお}さんに尋ねた。林



始めるなら6歳ごろ

大阪府大名誉教授 林壽郎さん

そろばん学習を始めるのは、ある程度、脳が発達し、自立心が芽生える6歳ごろが最適です。このころから脳を鍛えれば記憶力が良くなり、小学校高学年になったころに高度な知識を多く取り込めます。ただし、早ければ良いというものではありません。数の概念も分からない幼児に無理強いするのは避けてください。

高齢者にも役立ちます。指先を動かし計算することで、加齢により減少した脳神経細胞の配線を増やすことができます。楽しみを持つことで生活にハリも生まれます。若々しさを保つためにもぜひ続けてください。

さんは人工臓器の専門家。高齢者のリハビリを研究するうちにその有効性に着目し、著書に「子どもをすくすく伸ばすそろばん」(共著)もある。

「脳の働きを良くするのは、大脳新皮質の運動野と感覚野(※注)の神経細胞の配線(シナプス)をいかに増やすかにかかっています。それには多くの脳神経を同時に働かせることと指先の反復運動が有効です。しかも、無意味に動かすのではなく、目的を持って組織的に動かすことが効果的。高いレベルの集中力も要求されるそろばんは、非常に効率良く脳神経を発達させます」

左右の脳の役割も明らかになってきた。右半身の運動は左脳が、左半身は右脳がつかさどる。左脳は言語や計算などの論理的な活動を、右脳は芸術や発想などのイメージを要する活動を担っている。

そろばんは右手で珠をはじいて計算するので左脳を使う。暗算は珠をイメージするので右脳を使う。「バランス良く脳を鍛えるのが大切です。その意味でもそろばんは理にかなっています」と、林さんは太鼓判を押した。

驚異のフラッシュ暗算

大阪府堺市の塾「ウメタそろばん」で、今、子どもに人気のフラッシュ暗算を実演してもらった。パソコン画面に一瞬だけ映し出される数字を暗算する。塾長の梅田忠則さんはフラッシュ暗算の名付け親だそうだ。

協力してくれたのは7段の腕前の小学6年、西出和正君。堺塾生珠算競技会で4連覇を狙う実力派だ。西出君は画面を見つめるだけで、次々変わる3ケタの数字を足していく。私もそろばん経験者だが、指を動かして空想の珠をはじかねば暗算が出来ない。珠はおぼろで指の動きも追いつかず、すぐにジ・エンド。

全問正解の西出君はというと「そろばん珠を思い浮かべて動かすだけ」と涼しい顔。珠の動きが正確で素早い

ため、瞬時に計算出来るようだ。梅田さんによると、今の保護者は検定にはこだわらず、計算力のアップや脳の活性化を望んでいるという。「百マス計算の陰山英男先生がそろばんを取り入れて学力を向上させた話などを聞いて、興味を持たれるよ

※注 運動野は体を動かす指令を出し、感覚野は人が感じる色々な感覚の統合と識別をつかさどる。

古里はどこ…?

大津

大津はかつてそろばんの産地だった。江戸時代初期の1612年、片岡庄兵衛が長崎から中国式のそろばんを持ち帰り、独自の改良を加えて製造を始めたと言われる。当時の大津は東海道路筋に当たり、近江商人の活躍や京、大阪という消費地に近いくことから大いに栄えた。

現在では作られなくなったが、同市立歴史博物館では、今も製作道具を見ることが出来る。古利、三井寺には全国珠算教育連盟が建立した大津そろばん顕彰碑があり、毎春、大津そろばん祭りが開かれている。

播州

播州そろばんは、安土桃山時代(1573~16

00年)に羽柴(豊臣)秀吉の三木城攻めで大津に避難した住民が製法を持ち帰り、広めたと伝えられる。

伝統を受け継ぎ、今も全国的に有名な産地だ。播州算盤工芸品協同組合事務局長の藤原敏一さんは「珠作り、軸作り、組み立てなど、分業制になっています。珠をはじいた時に跳ね返らないようにパチッと止まるのが大事。珠と軸がうまくマッチするように精巧に仕上げています」と自信をのぞかせた。



↑珠の入った箱に軸を入れ、4、5回振ると珠が軸に納まる



←伝統的工芸品として認定されているつげ玉のそろばん

全国珠算教育連盟

<http://www.soroban.or.jp/>

日本珠算連盟

<http://www.syuzan.net/>

全国珠算学校連盟

<http://www.shuzan-gakko.com/>

ウメダそろばん

<http://www.abacus24.com/>



計算特区の成果

文科省の小学校学習指導要領では、

取材日に5歳の男の子を連れて来ていただいたお父さんに動機をうかがうと、やはり「脳の活性化にはそろばんが一番良いと思った」と話していた。

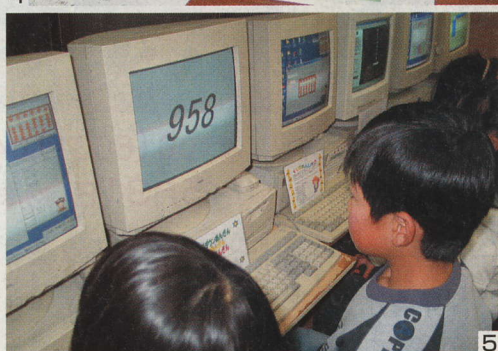
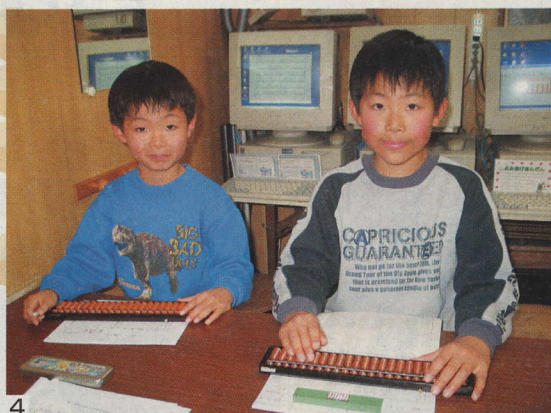
必修なのは3年生のみ。履修時間や他学年でも学ぶかどうかは、各校に任ざれている。目的はあくまで数や計算の理解を深めること

前出の林さんによると、今、中国などでは、児童への徹底教育を始めているそうだ。「今の子どもたちが大人になった時にどれだけ差が付くことか……」と林さんは危ぶむ。脳への効果だけではなく、じっと計算に取り組み集中力やがまん強さが培われる。塾では年齢の異なる子どもたちが共に学び、教え合う。電卓に頼る日々を送りがちだが、今一度、そろばんの良さを見直してみたい。

●簡単な暗算が出来るようになり、自信がついた(同)
●集力がついた(保護者)
●自分から進んで計算するようになった(同)
●計算が遅かったけれど、速くできるようになった(6年)

●手が動くようになって、頭の中にそろばんが浮かび、楽しく出来るようになった(5年)
●計算が遅かったけれど、速くできるようになった(6年)
●集力がついた(保護者)
●自分から進んで計算するようになった(同)
●計算が遅かったけれど、速くできるようになった(6年)

で、上達を目指すわけではない。使い方を覚える程度、というところか。兵庫県尼崎市は国から「尼崎計算教育特区」の認定を受け、取り組んでいる。04年に市立杭瀬小をモデル校に計算科を設置。2年生で年間10時間、3・6年生で50時間をそろばんを中心とした授業に当てている。児童や保護者からは、



1 年齢の違う子が一緒に学ぶ様子は昔も今も変わらない
2 林さん
3 見取り算、読み上げ算など、色々なパソコンのソフトを使って学ぶ
4 西出和正君(右)と弟の彩人君。家ではお兄ちゃんが先生だ
5 一瞬だけ映る数を追うフラッシュ暗算
6 梅田さん